

2018年度中間期決算について

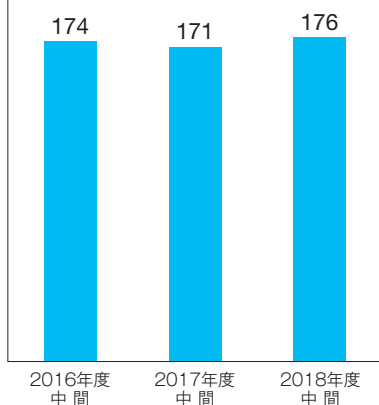
損益の状況

コア業務純益

176億円

(前年同期比 +5億円)

(単位: 億円)

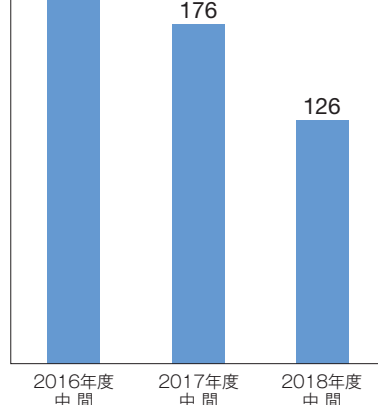


中間純利益

126億円

(前年同期比 △50億円)

(単位: 億円)

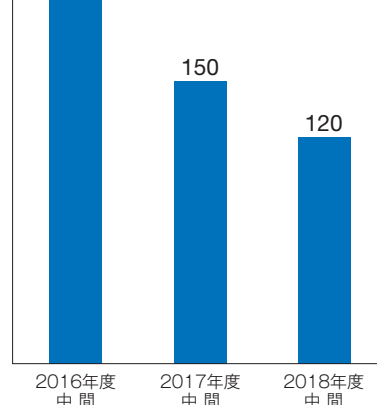


親会社株主に帰属する中間純利益

120億円

(前年同期比 △30億円)

(単位: 億円)



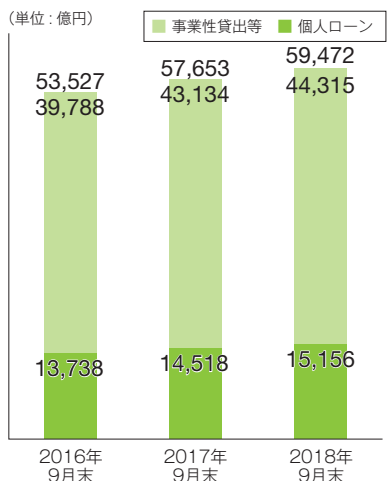
貸出金の状況

貸出金残高

59,472億円

(2017年9月末比 +1,819億円)

(単位: 億円)

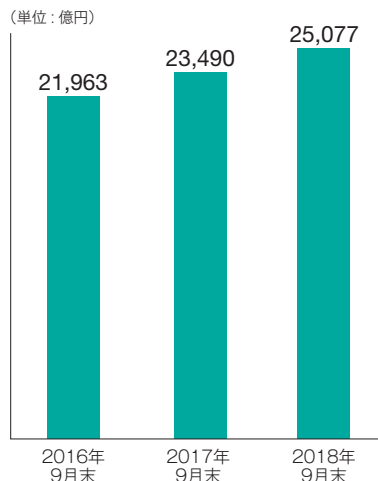


中小企業向け貸出金残高

25,077億円

(2017年9月末比 +1,587億円)

(単位: 億円)

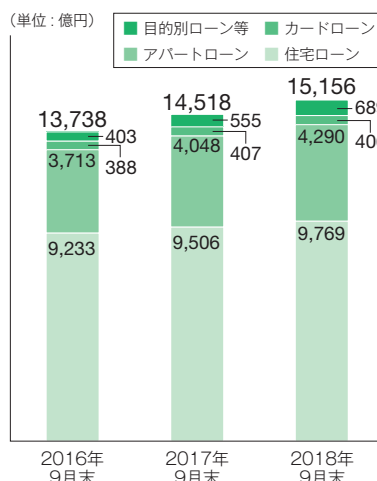


個人ローン残高

15,156億円

(2017年9月末比 +638億円)

(単位: 億円)

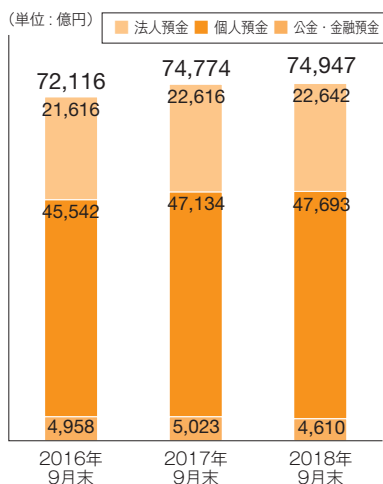


預金等の状況

預金等残高

74,947 億円

(2017年9月末比 +173億円)

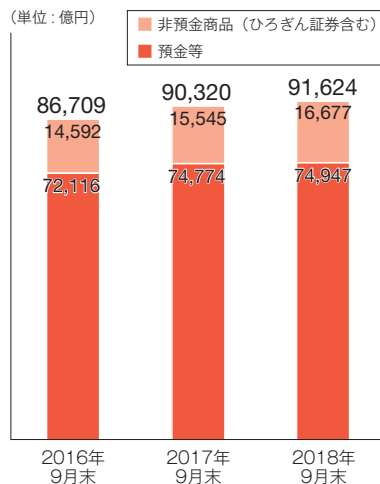


※ 預金等は、譲渡性預金を含んでいます。

総預り資産残高 (ひろぎん証券含む)

91,624 億円

(2017年9月末比 +1,304億円)



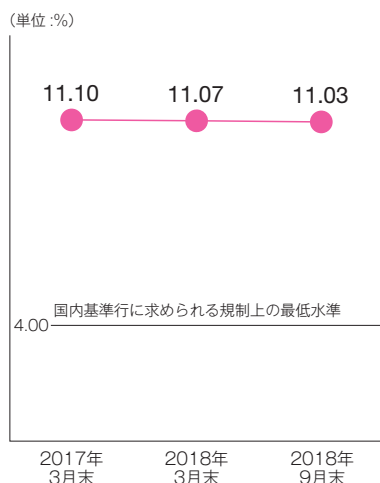
※ ひろぎん証券の非預金商品残高は時価ベースです。

自己資本比率の状況

連結自己資本比率

11.03%

(2018年3月末比 △0.04ポイント)

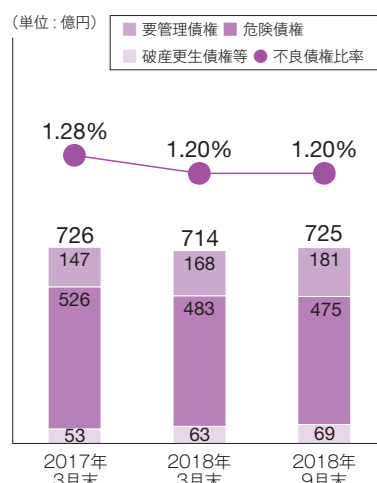


金融再生法開示債権額の状況

不良債権比率

1.20%

(2018年3月末比 ±0ポイント)



※ 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しています。

用語解説

コア業務純益

一般企業の「営業利益」に近い「業務純益」から特殊要因で変動する「一般貸倒引当金繰入額」と「国債等債券関係損益」の影響を除いたものであり、より実質的な銀行本来の業務による収益力を表しております。

「コア業務純益」＝「業務純益」＋「一般貸倒引当金繰入額」－「国債等債券関係損益」

自己資本比率

銀行が保有する資産に対する自己資本の割合で、経営の健全性・安全性を表す重要な指標です。国内基準対象行には4%以上であることが義務づけられています。

不良債権比率

金融再生法に基づく「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」の合計額の、銀行の与信額全体（「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」に「正常債権」を加えたもの）に占める割合として表されます。